

自己評価票

自己評価は全部で101項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	23
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	8
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	101

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明


評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	三条ケアセンターそよ風
(ユニット名)	ひまわり
所在地 (県・市町村名)	新潟県三条市島田2 - 4 - 3
記入者名 (管理者)	梨本 健 (梨本 健)
記入日	平成 20年 11月 30日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

取り組んでいきたい項目



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		今後、もっと気軽に立ち寄ってもらったり、交流がもてるように地域の方へボランティアを募集しているが、中々参加してもらえない。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		もっと幅広い地域交流が図れる様模索している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を定期的開催し、その中で課題検討を行ったり、積極的に意見を出してもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価された項目、総評を共通理解し改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの活動内容について報告したり、民生委員の方からの意見を基に地域との交流を図る機会を作れるよう努力している。		地域との交流を更に活発に出来る様、外部者や職員の意見を傾聴していきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	その様に行っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会を支社内で行なっているが十分ではないと考える。		研修会等のテーマに取り上げ学習する機会を設けているが、まだ十分な理解を得られていない。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や会議などで学んだり、話し合いを持ち、一切行われていない事を確認している。		虐待にも身体的～精神的な事もあり、常に現場では職員相互で意識の確認を行なっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は入居に際してや、描かれる日常生活の説明を細かく行い、グループホームでの生活における不安・希望・意見などを細かくお聞きし、入居後にも面会時などにその都度要望等を伺っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者から意見・不満・苦情を気軽に言ってもらえる様な関係作りに努めており、それらを職員全員に周知できる体制作りができています。</p>	<p>利用者の意見等は、極力書面に残し日々検討を行なっている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回、グループホームの新聞を発行しており、また、個々の利用者の様子や金銭管理状況をお手紙でお知らせしている。又、生活の様子に変化が観られた時は随時連絡し、家族と情報を共有している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族と普段から親しみを持って接し、面会時などに気楽に意見を言ってもらえる関係作りに努め、苦情等があった場合は迅速に対応方法を話し合い、全員で共有している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的な会議で職員からの意見を聞く様になっているが、実際は中々表れて来ない。はっきりと全職員が意見を言い合える機会が少ない。</p>	<p>もっと自由に職員一人ひとりの意見が言い合える会議の雰囲気作りに努めたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>その時に応じた柔軟な対応を行なっている。急な調整はできているが、職員確保が難しい時もある。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>共通したサービスがいつでも受けられる様周知、実行しており、職員移動時にはきちんと引きつぎを行い、利用者に精神的・肉体的な負担を与えない様配慮しているが、離職者が多い様に感じる。</p>	<p>職員間の引継ぎをより確実なものにしていく。</p>
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>マニュアルは職員全員で周知できており、又状況に応じた見直しも随時行っている。</p>	<p>複数のマニュアルを随時整理していく必要がある。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に適した内・外部研修への参加を推し、それより得られた物を会議や研修会で報告、周知してもらっている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流は現在の所行なっていない。		交換研修などで他グループホームを見て、良い所を取り入れ、向上できるようにしたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩所や親睦会の場などで話を聞くように心がけているが十分ではないと思われる。		もっと気軽に相互の意思疎通が図れるような関係作りに努めたい
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の実績を評価したり、賞賛の言葉掛けを随時行うように心がけている。		職員個々の性格、能力を整理し効率的で温もりのある手法を習得できるようにしたい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	日々の生活やモニタリングの中で詳細に傾聴するようにしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時に日常生活の状況を伝えたり、家族からの相談事、要望などを聴くようにしている。		家族から気軽に要望等を言って頂ける様、普段からの関係作りに配慮していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が、その時に一番必要なのか、課題への優先順位を見極める能力を普段から研鑽している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に馴染みの関係を作っていけるように、現場職員や入居者が本人に会いに行ったり、本人の好きな事、物を用意して普段の生活に近づけ、新しい環境に馴染みやすく出来るよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に生活する中で、生活の知恵を伝授してもらったり、マナーや風習を教わったりして支えあう関係が築けるように努めている。		職員間で個人差がある為、相互に研鑽し合っていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に本人の様子をお伝えし、嬉しかったことを共に喜んだり、不安な所、問題となっている事を一緒に考え、より快適な生活が送れるよう話しあっている。		職員間で個人差がある為、相互に研鑽し合っていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	時に、家族と本人のパイプ役になり、それぞれの思いを共通理解する様にしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室へ行ったり、面会に来られる知人の方達を温かくお迎えし、いつでも気楽に来て頂ける様対応している。又、かかりつけの主治医との関係も大切にしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間の関係性を普段の生活の中での様子や、本人の言動から把握し、状況に応じて職員が間に入り調整したり、お互いに関わりやすい関係が築けるように環境を整えている。孤立しやすい利用者へは特に意識して関わっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後もお見舞いに行ったり電話等で近況をお聞きするなどして関係を継続する様努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の言動から利用者の意向を汲み取り、又それが困難な場合には生活暦等で本人本位に検討、対応している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報を主源に把握する様努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	気付いた事を記録に残したり、職員間で情報交換しながら、個別に、総合的に把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、職員と一緒に話し合いながら作るようにしている。家族の意向も反映させたいが、中々参加を促しても困難な場合が殆どなのが現状である。		家族への働きかけを意識して行なっていく。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間毎のモニタリング、評価を行っている。急な変化があったら、その都度話し合い、最良の対応が出来るようサービス計画の変更を柔軟に行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の言動、気づきを記録し情報を共有、サービス計画の見直しに活かしている。		情報の共有力を更に強めていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望時、同センター内のデイサービスのレクへの参加や広いスペースでの行事、大きな浴場での入浴を随時行っており、利用者からも喜んで頂いている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	お茶飲み会などで地域の方や、総合学習で小学生などとの交流を出来るようにしているが、個々の趣味の楽しみはまだ十分に出来ない。		地域の趣味活動でのボランティアを募る。現在は週一回の囲碁ボランティアだけである。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他ケアマネジャーやサービス事業者との話し合いや利用は行っていない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働は行っていない。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医を主治医として、入居後も希望に沿った対応を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医を中心に、そういった関係を保持しており、その時の状態により適切に相談、受診している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週一回の訪問看護師や当センターのDS看護師に状況を説明し、その都度適切な指示をもらい対応している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、できるだけ毎日面会に伺い、こまめに情報を得てスタッフ間で状態を把握している。また、医療相談員とも連携し、退院に向けて話し合いを行なっている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	話し合いは行なっているが、早い段階からの話し合いが不足していると考え。方針の共有は随時ミーティングを開き周知できていると考え。		契約時など、早い段階からのある程度の合意をしておく事は必要であると思う。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	当事業所で行える範囲の行為を家族に説明し、主治医や訪問看護師との連携を行なっている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	リロケーションダメージが最小限になるように、入居前に自宅を訪問し、部屋の配置を見たり本人の希望を聞いて居室作りの参考にしている。また、在宅時のケア関係者との情報交換を行ったり、本人に介護職員が会いに行き、顔なじみになるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳は職員全員で遵守するよう心掛けている。又、記録等においてはプライバシーの保護に配慮している。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	本人が自分の思いを言いやすいように、居室で一对一で話しをしたり、個々に応じて選択肢を用意したりして出来る限り自分で決められるように支援している。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の意識としてはあるが、業務との兼ね合い等で利用者個々に対してはまだ十分に行えていないと考える。	利用者個々の生活パターンを把握し、その人らしさを尊重できる支援を今後も続けていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望する理美容室に行っている。しかし、普段の身だしなみへの配慮が足りない。	普段から爪や髪などの身だしなみがいつでも自分で出来る環境を整える。自分で出来ない人にはこちらから支援の声掛けをする。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の意志や残存能力に応じた家事をしてもらっているが参加利用者に偏りがある。	利用者個々の好み、能力を随時検討し対応していきたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の意向を聞き、在宅時からの嗜好は支援させてもらっている。 (晩酌、好きなおやつなど)	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレで快適に排泄出来る様、誘導等を行っている。又、トイレやポータブルトイレの衛生に配慮している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	バイタルや様子、健康状態などを考慮した上で、希望に沿った入浴を支援している。(時間、誰と入浴したいか等)入浴剤も適宜使用し満足感を得られるよう努めている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個別の生活リズム、その時々体調に合わせて休息をとってもらうようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の言動や家族からの情報、生活歴などを分析して、それぞれに適した生活支援を行っている。(家事、洗濯物たみ、食器洗い等)		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したり使う事への希望は聞かれない。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出かけられるように努めているが、日常的にはまだ不足している。全員で出かける回数が少ない。買い物で週一回位外出希望がある利用者に対しては行なっている。		その都度、可能な限り希望に沿っていけるようにしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月1回外出計画をしたり、自由に家族とともに出かけられるようにしている。今年はユニットの利用者、職員で温泉に行き、とても満足されていた。できる限り外出の機会を作っているが、まだ満足して頂ける状態にはない。		その都度、可能な限り希望に沿っていけるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って電話をしてもらっている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも、自由に面会して頂き、職員も気持ちよく挨拶を交わしている。居室等でゆったりと話せる環境を提供している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに散り組んでおり、随時研修会等で確認し合っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は本人以外は鍵をかけていない。また、玄関は月曜から土曜の10時から17時半までは開錠している。日曜日は1階が不在となる事もあるので、防犯の為、施錠をしている。ただし、面会者がわかりやすいように、インターホンを押してくださいという札を下げている。来訪時は機敏にお迎えしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間で所在確認、様子観察を行なっているが、決して利用者の行動を妨げない様に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物は一律に引き上げるのではなく、危険がないようにどのようにしたら良いかという話し合いを行ない実践している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の状態に合わせた対策を考えているが、具体的に、もしこうなったらどの様に対応するのかの知識、技術が乏しい様に思う。		具体的な場面をシュミレートした取り組みを学べる機会を増やしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に消防署からの救急法の勉強会に参加したり、研修会などで対応方法を学んでいるが開催回数が少ない。		勉強会、研修会の開催頻度を増やしていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行ったり、運営推進会議などで地域の皆さんからの協力を働きかけている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時、面会時や月々の状態をお知らせする手紙などで状況を伝えている。又、状況変化時にはその都度連絡し、対応策を話し合っている。		もう少し、リスクについての家族への説明の場をもっと増やして行きたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員間の情報共有を迅速に行い、その都度訪問看護師や主治医に連絡をとり、指示に沿って受診したり、様子を観察したりしている。		観察の視点、主治医に連絡する判断基準を共有化していきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の内容について把握し、症状に合わせて主治医に相談し、指示を得ている。また、内服薬の変更があったらその都度、職員間で周知し情報を共有するようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分を多めに勧めているが実際の摂取量は期待値以下の利用者が多い。又運動の働きかけが少ない。		個々に応じた運動を生活の中に取り入れていく。便秘の方への腹部マッサージ・ヨーグルト・牛乳の飲用、毎日2回の体操は実施している。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを励行、実施している。		水分摂取の少ない利用者へはセリー状にするなどして促していく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の健康状態、習慣に応じて支援しているが水分摂取量が少ない利用者がいる。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	汚物の処理方法、消毒方法など取り決めがあり、励行している。また、手洗い、うがいを励行し防止に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、食器・まな板・包丁・流し台・布巾等の熱乾燥や消毒を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前にプランターを置いたり、入りやすい様に歓迎のプレートを下げている。		玄関周りの花を季節毎に楽しめるように年間計画をし、利用者と一緒に世話をしていけるようにする。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良いように心がけているが、トイレの匂いが気になる事がある。花を活けたり、時期のカレンダーを飾ったりして、ぬくもりのある空間作りに努めている。		汚物の始末を工夫して、匂わないように配慮する。(使用済みのパットは新聞紙に包む等)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや居室、エレベーター前、事務所などに椅子、ソファを置いたり、ベランダに椅子を置くなどして、その時の気分にあった居場所を使えるようにしている。		実際に利用されている利用者は特定の人達だけなので、もっとアピールしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の生活の中で使ってきた物、親しんできた物などを居室に配置し、安心して落ち着ける空間作りに取り組んでいる。家族からも協力してもらい、その人らしさが表現できる場所になるよう話を伺い環境を整えている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	随時、換気を行い新鮮な空間作りを心がけている。利用者の声を聞き、温度設定にも配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路に障害物を置かないよう配慮したり、手すりなど、直ぐに捕まりやすい物を設置している。		浴室や居室などもっと捕まる場所が欲しい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	それぞれの能力、残存機能に合わせた環境作りに努めている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑やプランターなどで花や野菜を育て、利用者と一緒に水遣り、草取りなどをしており、それを楽しみにしておられる。		もっと1年を通して楽しめるように、計画して取り組んで行きたい。

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者の
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいの
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいの
		<input type="checkbox"/>	ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="checkbox"/>	毎日ある
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度ある
		<input type="checkbox"/>	たまにある
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族と
		<input type="checkbox"/>	家族の2/3くらいと
		<input type="checkbox"/>	家族の1/3くらいと
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・「利用者との関わり」に最重点を置き、利用者個々の生活に対する満足度を常に主点に据えてファミリーを形成している。親しき仲にも謙虚さを忘れず、人生の大先輩に敬意を払いながら支援させて頂いている。
- ・毎月1回地域の方とお茶飲み会を開いて、地域との関わりが持てるようにしている。
- ・近所の小学校との交流も図り、利用者も喜ばれている。